

災害と文学

助教 / 大石 富美

地震や感染症などの災害は、人々の生き方や社会のあり方を大きく揺さぶってきました。近現代文学を読みながら、人はなぜ災害を語るのか、文学は何を伝えようとするのかを考えます。文学研究の方法を紹介しながら、社会と向き合う学びの一端を体験してもらいます。

日本語って不思議！

教授 / 齊藤 学

外国人に、「カ行・サ行には濁音（ガ行・ザ行）があるのに、ナ行・マ行にはどうして濁音がないの？」って聞かれたら何と答えますか？『あげる』は give、『もらう』は get、『くれる』は何？』って聞かれたらどうでしょう？この講義では、私達がいつも何気なく話している日本語の不思議を共に探っていきます。

「東アジア史」から考える
「日本人」と「日本文化」

教授 / 金 泰勲

「日本人」とは誰ですか。「日本文化」とは何ですか。自明なもののように思われるこの問いを「東アジア史」の観点から考えてみましょう。この講義では、文化や伝統の普遍と特殊の問題について、縦の時間軸と横の空間軸で眺めるアイデンティティの多様性という観点から学習します。

身近な地域を知る

准教授 / 金子 直樹

身近な地域について、その人文・自然的特徴を考えたいと思います。普段生活している場所の状態や成り立ちなどを確認し、社会科で学ぶ内容との関連性や地域の課題などについて知ってもらいたいです。具体的には、地域社会に関係する人口や産業など、自然災害に関わる地形や気候などの特徴について、地域に適した内容を紹介していきます。

愉快的翻訳論

教授 / 赤井 勝哉

"Yes, captain!" この簡単な英文を日本語に訳せますか？「はい、船長」？「了解、機長」？「いいわよ、キャプテン」かもしれませんよ。「へい、ダンナ」の可能性もあるし、「違うぞ、大佐」もないとは言えない。訳文は前後関係（文脈）の中でしか決められないものです。文脈の大切さを中心に、AIについても視野に入れつつ、翻訳について楽しく語ります。

大学での英語の講義を
体験してみよう

教授 / 中澤 加代

大学の英語の授業は高校以上に難しいのでしょうか、それとも楽しいのでしょうか。実践的な英語力・コミュニケーション能力を身につけることを目指している大学の英語の授業をぜひ体験してみてください。

The Power of Vocabulary

助教 / エセックス マイケル

Although many English language students focus on learning English grammar, vocabulary is even more important for many different language purposes. How much vocabulary is necessary for doing various things in English? It 's probably less than you think! This class will focus on the usefulness of vocabulary and vocabulary learning strategies. If there is time, we will finish with a vocabulary game.

なぜ戦争が起こるのか？
ガザ虐殺とウクライナ戦争、
そして日本は？

教授 / 井上 雅義

なぜイスラエルは「ガザ虐殺」を止めないのか？なぜアメリカはイスラエルに軍事支援をするのか？アメリカとイスラエルが国連と対立するワケ。アメリカの若者たちがイスラエルを批判する理由は？中東情勢やウクライナ戦争など、戦争の報道に危機感を覚えるかも知れません。その危機は日本に及ぶのでしょうか。日本は防衛費を倍増して軍事力を増強すれば“安全”なのでしょうか。日本が戦争に巻き込まれないために必要なことを考えます。

【使用機材】PCのHDMI接続できるプロジェクターかモニター（PCは持参します）。

文学が培う宗教リテラシー / 宗教的センス

准教授 / ネルソン ジョシュア

宗教リテラシー／宗教的センスとは何か。現代社会で生き抜くために必要な感性です。宗教との向き合い方や信仰を持つ人たちとどう関わるかについて考える力を身につけていくことを目的としています。本講義では、戦後に活躍したカトリック作家の遠藤周作の作品群を取り上げます。『沈黙』や『深い河』などの代表作が扱う諸課題を通して、知識だけでは説明がつかない「宗教」の謎・おもしろさに気づくことができるかもしれません。

【使用機器】(パワーポイント使用) PC、プロジェクター

自尊感情が「低い」といけないのか？

教授 / 会沢 勲

21世紀に入ると、「自尊感情」の波が学校にまるで神話やカルトのように押し寄せます。先生方も親御さんも子どもたちも、自尊感情が低い・高いと大騒ぎしています。そもそも "self-esteem" がそんなに個人の状態を言い当てるほど意味のある説明変数と言えるのか。そういう議論を抜きにして前に進めないと思いませんか。

色彩の世界

教授 / 松村 武夫

造形芸術の基本的な要素である「色」は、幼稚園や小学校における造形教育においても基本的で重要な要素となります。本講義では、身近な物品を例にして様々な配色の効果やその表情を紹介し、「色」についての理解を深めます。

教員養成の仕組み

教授 / 元井 一郎

現在の教育職員免許法の構成を中心に、教員免許制度の構造あるいは教員免許状の種類などを簡潔に解説します。また、併せて現在の教員採用の構造や特徴、および現在求められている教員像などについても簡単にお話しします。

どうして勉強するのか？

教授 / 六車 治

「なぜ、こんな役に立ちそうもない知識を覚えるのか？」「どうしてだれもが勉強しなければいけないのか？」だれもが一度は抱く学校や勉強への疑問に対し、教育学の視点で考察します。

あわせて、これからの新しい時代を生きるための勉強の仕方をみんなで考えてみましょう。

グループ学習で重要なこと - 文化歴史的活動理論から考える -

教授 / 森川 由美

AIに代替されない仕事の特徴として、人間同士でコミュニケーションをとりながら協同で進めることを挙げることができます。そのため、そうした力を伸ばすために、学校の授業でもグループ学習が増えてきています。そこで、グループ学習において重要なことを、文化歴史的理論を用いてみていきましょう。

歴史像を組み立てる

助教 / 松本 智也

歴史は過去の出来事ですが、私たちは過去の出来事それ自体は直接観察できません。ではどのようにしたら過去の歴史を知ることができるのでしょうか。私たちは過去の人間が残した何らかの活動の痕跡である「史料」に基づいて歴史像を組み立てて、それによって過去の出来事に迫ることができます。この講義では実際に史料を読みながら、歴史を探究していきましょう。

「なぜ」を 徹底的に探求する哲学

助教 / 小山田 圭一

哲学は驚きから始まる、と言われます。私たちが抱く驚きは、なぜそうなるのかの根拠や原因がわからないものごとに対してあるものであり、そこで同時に生じる根拠や原因への好奇心こそが人を哲学的探求へと向かわせるのです。つまり哲学は、ものごとの根拠や原因を知りたくなる好奇心に基づく探求のことなのです。この講義では、そうした哲学的探求の典型的な例として、存在に関する問題を取り上げてわかりやすく紹介します。